

《 大分県 》

第 62 回九州音楽教育研究大会 大分大会

第 62 回大分県音楽教育研究大会大分大会

研究主題「感じとろう つながろう そして楽しもう」

～心豊かな未来を創造する音楽の学び～

第62回九州音楽教育研究大会並びに大分県音楽教育研究大会を大分市で行うにあたり、平成30年度より研究組織及び研究内容についての計画を立て、大分市の音楽教育の研究母体となる大分市小学校教育研究会音楽部会の中で授業実践を行いながら研究発表会を行うこととして進めてきた。しかしながら、コロナ感染拡大により、授業は制約され、研究部員の人数も限られてしまい、研究集録での提案という形をとらざるを得なくなってしまった。とても残念なことであった。しかし、制限はあるが、今後の授業に役立てられるような授業研究をと限られた部員とともに研究を行い、成果を発表した。

1. 大会主題設定の理由

今、学校教育では、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。こうした状況を踏まえ、平成29年3月に小学校学習指導要領が告示され、令和2年度全面実施となった。

今回の改訂で特筆すべき点は、全ての教科等で育成を目指す資質・能力を明確化したことや、目標及び内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力」の3つの柱で再整理した点があげられる。

また、「何を教えるか」ではなく、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、まずは学習する子供の視

点に立った授業改善や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点での授業改善を行うという点である。

音楽科を学ぶ本質的な意義の中核となるのが「音楽的な見方・考え方」である。音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」であると考えられる。資質・能力の育成にあたっては、子供が音楽的な見方・考え方を働かせて学習活動に取り組めるようにする必要があり、深い学びの視点から、授業改善の一層の工夫が求められている。

これまで本県では、平成24年に行われた第53回大分県音楽教育研究大会大分大会における大会主題「感じとろう つながろう そして楽しもう」をテーマに掲げ、継続して研究をすすめてきた結果、仲間と歌い合わせることの楽しさや様々な楽器を演奏することの喜びを実感できる子供たちが増えてきた。

私たちは、子供たちが、音楽を楽しみ、音楽を好きになり、音楽によって自分たちの生活をより豊かにしていけるということを実感してほしいと思っている。そしてそのことが、自分を幸せに、社会を幸せにすることにつながっているという、音楽の役割や可能性に気づいてほしいと願っている。

2. 大会主題について

感じとろう

学習指導要領音楽科の目標にある「音楽に対する感性」とは、音楽の様々な特性に対する感受性であり、表現及び鑑賞の活動の根底

になるものである。また、豊かな心を育む基盤ともなり、音や音楽を豊かに感じ取り音楽の美しさを感じ取るうえでも重要な働きをもっている。このことから全ての音楽活動の中で音や音楽を豊かに感じ取らせていくことが大切だと考える。

つながろう

自分の思いや意図をもちながら友だちと関わり合い、感動を共有することで音楽のよさや楽しさを感じとらせることができる。また、合唱や合奏など友だちと関わり合い、ひとつの音楽をつくっていく活動を通して、音楽のよさや美しさ、さらには協働する喜びを感じとらせることができる。子供たちが、音や音楽、人、先哲、生活や社会などにつながることで、さらによりよい音楽を追求することができるであろう。

そして楽しもう

生活の中にはいつも音や音楽が溢れているが、その音楽と関わりを深め、音楽のすばらしさや価値を実感し、音楽を楽しんで、心豊かな人生を歩んでほしいと考えている。

そのために、様々な楽曲に触れ、音楽によって喚起されるイメージや感情、よさ、美しさを伝え合い論じ合う面白さを感じさせたい。また、自分たちの表したい思いを伝え合い、試行錯誤しながら表現を高めていく楽しさを味わわせたい。さらに、今まで知らなかった音楽に出会ったり、自分の演奏が聴き手に評価されたりした時の楽しさや喜びも感じさせたい。

心豊かな未来を創造する音楽科の学び

人間は、様々な音や音楽から影響を受けたり様々な音や音楽を生み出したりしてきた。音や音楽によって心を落ち着かせたり、やる気を奮い起こしたり、喜びや悲しみを共有したり、一体感を味わったりするなど、音や音楽は生活や社会と密接な関わりをもっている。コロナ禍の中でも、子供たちは、歌を口ずさんだり、曲を聴いて体を動かしたりする等、

音楽を楽しみたいと思っている姿が見られた。このようなことから、子供たちが、今学んでいることが、現在や未来の生活や社会を心豊かにすることにつながっていることや、役立つことを実感したり、仲間と同じ目標を共有し、協働しながら創造していくことの楽しさを感じたりできるような音楽科の学びを実現していきたい。

3. 研究の内容

(1) 研究仮説

音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善することにより、学んだことの意味や価値を自覚するとともに、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力を育成できるであろう。

(2) 研究の視点

視点1 音や音楽に親しむ主体的な学びの実現

子供が学ぶことに興味関心をもち、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習を振り返って、学んだことや自分の変容を自覚したりできる場を題材や授業の指導計画に設定する。授業における目標や目指す姿を具体的に示し、「何ができるようにすればよいか」を明確にする。

<指導の手だて>

① 主体的な学びを促す学習過程の工夫

- a 学習の見通しをもたせ、意欲を高めるめあての設定
- b 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる振り返りの場の設定
- c 追究すべき事柄を明確にする課題の設定と追究した結果を明確にするまとめ

視点2 音や音楽、人とのつながりを広げ深める対話的な学びの実現

知覚したことと感受したことの関わりについて、自分の考えとその根拠をもたせ、自分自身、子供同士、教職員や地域の人、音楽家、時間・空間を越えた先哲など、他者と関わり

ながら、対話や協働による学習を行う「学び合いの場」を設定する。

＜指導の手だて＞

- ① 音楽的な特徴について共有したり、感じたことに共感したりする「学び合い」の場の工夫
- ② 実際に音楽的表現をしながら確かめたり、音楽を聴いて確認をしたりするなど、音楽を媒体とした対話的な学びができる場の工夫

視点3音や音楽と豊かに関わる深い学びの実現

音楽に対する感性を働かせ、イメージや感情、生活や文化などと関連付けることができる発問や働きかけなど、音楽的な見方・考え方を働かせることができる学習活動の工夫と、子供の表現、発言等のよさを見取り、価値づける等、教師が指導改善を図ることができる学習評価の充実を図る。

- ① 音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚する場の設定
- ② 音楽的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫
- ③ 深い学びを支える指導と評価の工夫

4. 研究の成果

視点1について

- 題材の学習のねらいと学習内容を明確にし、子供たちにつけたい力に合わせた教材研究を行い、教材配列や指導計画を設定したことで、子供たちの主体的な学びにつながった。
- 子供たちの思考の流れに沿って学習活動を組み授業における目標や目指す姿を明確にしたことにより、追究意欲が高まったことが成果としてあげられる。
- 振り返りの場を設定し、振り返りカードの継続的な活用や問題意識を次につなげるための使用が効果的であった。また、場面によっては、iPad「ロイロノート」を使用し

たことが自分の学びの成果を実感できる要因となった。

視点2について

- 「学び合い」の場面では、曲のイメージの捉えが似ているグループで工夫を話し合わせたことにより、お互いが感じたことを共感的に受け止めている姿が見られた。また、思いが共有できるように工夫した板書や楽譜の活用も有効的であった。
- 創作の授業では、iPad「GarageBand」を使用して作成し録音したものをお互いに聴き合う活動で、伝え合いながら創作を進めることができた。
- 鑑賞の授業では、聴く活動→考えの交流→聴いて確かめる活動を繰り返し行うことで言葉だけではなく、音楽による対話的な学びを行うことができた。

視点3について

- 音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚する場では、写真・映像・挿絵等が子供たちのイメージを膨らませたり、全員で共有したりすることに有効的であった。
- 子供たちに振り返りの場をもたせ、ワークシートに記入させた。子供たちの考えを教師が見取り、把握するとともに、教師の言葉かけが価値付けとなり、子供たちの学習意欲につながっていた。

5. 今後の課題

「感じとろう つながろう そして楽しもう」をテーマに、音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行ってきた。今後も学んだことの意味や価値を自覚するとともに、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力を育成できるような研究を多くの研究部員とともに進めていきたい。